

沼田町化石館年報

第5号

平成 17 (2005) 年度

*** 特 集 ***
記 録
沼田化石研究会20年の歩み

沼田町化石館
Numata Fossil Museum

目次

■ 特集	
記録	1
沼田化石研究会20年の歩み	
■ 活動報告	
I 沼田町化石館の概要	
1. 沿革	5
2. 設置の目的	5
3. 施設内容	6
II 事業	
1. 展示	7
(1) 常設展	
(2) 特別展	
(3) 企画展	
2. 教育・普及	8
(1) 化石館事業	
(2) 体験学習受け入れ	
(3) 講演・講師活動	
(4) 広報活動・出版物	
3. 調査・研究	12
(1) 学術講演	
(2) 野外調査	
4. 資料収集	15
(1) 現在までの登録資料	
(2) 今年度収集・登録資料	
(3) 寄贈された標本	
5. レプリカ製作	16
(1) 収蔵資料	
(2) 委託製作	
III 管理・運営	
1. 利用状況	17
2. おもな出来事	18
3. 組織・職員	20

記 録 「沼田化石研究会20年の歩み」

1. 沼田化石研究会発足以前

沼田町に多くの化石が産出することは、開拓の昔から人々によく知られたことでした。先住民であるアイヌの人たちは、化石について「命を終えた遺体を神様が集めて葬ったもの」と考え、その場所を神聖なところと崇め、「セイ・オ・ピラ」（貝殻の多くある崖）と呼びました。

沼田町の化石について最初の記録は、幕末期の安政4年(1857)、この地を探検した松浦武史郎による「石狩日誌」に見ることができます。その中で武史郎は、「セヨピラ」というところで、崖にびっしりと埋まっている貝を採ろうとして、案内のアイヌ人にとがめられたと記しています。この場所は現在の沼田町共成第2に見られる大露頭であると考えられます。

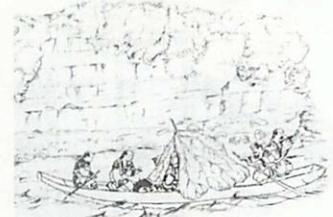
明治26年(1893)以降炭田開発に伴い、かつて炭鉱として栄えた昭和や浅野から、第三紀始新世(約4千万年前)の水辺で生活したサイの仲間であるアミノドンや、第三紀中新世(約千2百万年前)に生息し、のり巻きを束ねたような奇妙な形の歯を持っていたデスモスチルスなどの動物化石が発見されました。

その後しばらく化石の発見は途絶えましたが、昭和55年(1980)深川市の上田重吉さんが雨竜川の高穂第2で発見したヒゲクジラの化石が、海の哺乳類化石としては最初の発見となりました。しかし、この化石は平成13年(2001)沼田町に返還されるまで、研究のため北海道教育大学札幌校に保管されることになりました。

2. 又マタネズミルカの発見と沼田化石研究会の発足

そして、1985年6月、当時秩父別中学校に勤務していた山下茂教諭によって、幌新太刀別川からほぼ一体分がそろった第三紀鮮新世の小型歯クジラ化石が発見されました。町では、前回の経験から「沼田歯クジラ会」（その後沼田化石研究会）を発足させ、この貴重な化石の発掘から調査・研究、保存までを地元で行うことを目指しました。

この発見を契機に、毎年のように大型のほ乳類や虫類のウミトカゲ、クビナガリュウなど貴重な化石の発見が相継ぎました。沼田化石研究会はそのたびに、専門家の指導を受けながらも自前で発掘や研究に取り組んできました。また、自然観察会や親子化石発掘教室の開催など、町民向けの普及事業なども展開しました。



探検中の松浦武史郎一行
(山下茂氏原画)



共成第2の雨竜川左岸「セヨピラ」の大露頭

このように、沼田化石研究会は歴代3人の会長の下に20年間に渡って多彩な活動を繰り広げてきましたが、平成17年(2005)3月、諸般の事情によりその歴史に幕を下ろし、化石館を拠点とした新たな形態での活動が始まりました。

3. 歴代役員

- 会 長 石岡新一(S60~61), 村井正樹(S62~H10), 松田真一郎(10~17)
- 副会長 山森清(S60~H4), 伊藤寿雄(S60~61), 佐々木信尊(S62~63), 松田真一郎(H1~3,5~9), 小林茂(4~5), 原田隆興(6~7), 堺公平(8~9), 石崎豪章(10~17)
岡田忠幸(10~11), 奥山登(12~14), 山本繁(15~17)
- 事務局長 半田昭雄(S60~63), 清水勝之(H1~2), 平木昭良(3~4), 松田剛(5~6), 浅野信行(7~9), 篠原毅(10~12), 神薮太(13~14), 山下茂(15), 篠原暁(16~17)

4. 沼田町化石研究年表

●昭和21年(1946)

昭和地区で山本敏夫さんが始新世のワタナベアミノドン(右上顎骨, 第2・第3臼歯)を発見。

●昭和28年(1953)

雨竜鉱業所で和田達さんが中新世のテスモスチルス(臼歯)を発見。

●昭和55年(1980)

雨竜川で上田重吉さんが鮮新世のコイワシクジラ(頸椎, 胸椎)を発見。

●昭和60年(1985)

幌新太刀別川で山下茂さんが鮮新世のヌマタネズミイルカ(ほぼ全身)を発見。

町内の教員や有志, 教育委員会職員などにより「沼田歯クジラ会」が設立され, ヌマタネズミイルカ化石のクリーニングとレプリカづくりを開始。

●昭和61年(1986)

幌新太刀別川で田中孝幸さん, 加藤正叙さん, 瀬戸正さんらが鮮新世のアシカの仲間(下顎, 前肢, 脊椎, 肋骨等)を発見。

●昭和62年(1987)

幌新太刀別川で松原一雄さん, 利浩さん親子が中新世のヌマタカイギュウ(脊椎, 肋骨)を発見。

幌新太刀別川で瀬戸正さんと松原利浩さん, 荒木克博さん師弟が鮮新世のセイウチ科(犬歯, 頬歯)を発見

木村方一北海道教育大学教授と、山下茂沼田中学校教諭が1986年発見のアシカの仲間について海生哺乳類学会で発表。

1980年に上田重吉さんが発見したクジラ化石についての論文を発表。木村方一・山下茂・上田重吉・雁沢好博・高久宏「北海道雨竜郡沼田町の下部鮮新統産クジラ化石」松井愈教授記念論文集, P27~57

●昭和63年(1988)

幌新太刀別川で田中三郎さんが鮮新世のヒゲクジラ類(腰から後ろのほぼつながった脊椎)を発見。

幌新太刀別川で山口正雄さんが鮮新世のタキカワカイギュウ(肋骨)を発見。

雨竜川で前田寿嗣さんが鮮新世のケトテリウム科クジラ(下顎骨)を発見。

沼田歯クジラ会を沼田化石研究会と改称。

●平成元年(1989)

幌新太刀別川支流で松原一雄さん、利浩さん親子が鮮新世初期のヒゲクジラ類および歯クジラ類(耳骨、前肢など部位多数)を発見。

雨竜川で大堀三郎さんが鮮新世のコイワシクジラ近似種(頭骨)を発見。

雨竜川で広沢英治さんが鮮新世の歯クジラ類(脊椎)を発見。

幌新太刀別川で廣田清治さん、山下茂さんが鮮新世のアシカの仲間であるイマゴタリア(下顎骨他)を発見。

●平成 2 年(1990)

幌新太刀別川支流の支線沢で白亜紀調査団(団長村上実)が、白亜紀のウミトカゲであるモササウルス類(頭骨)と、クビナガリュウのエラスモサウルス類(頬歯、脊椎)を発見。

幌新太刀別川で吉住晴美さんと山下茂さんが、鮮新世のイマゴタリア(下顎骨、犬歯、頬歯、肋骨)を発見。

沼田化石研究会が公民館に於いて5周年の記念式典および特別展を開催。

山下茂さん(沼田化石研究会研究部長)が、化石研究への多大な功績により空知教育実践表彰を受ける。

1986 年発見のアシカの仲間についての論文、山下茂・木村方一「北海道沼田町における前期鮮新世のアシカ科化石の発見」地球科学, 44 巻 2 号, P53~60, が発表される。

1988 年発見のタキカワカイギュウ肋骨についての論文、古沢仁・沼田化石研究会「雨竜郡沼田町におけるタキカワカイギュウの発見とその意義」地球科学, 44 巻 4 号, P224~228, が発表される。

●平成 3 年(1991)

教育委員会は、貴重な化石が次々と発見された幌新太刀別川周辺地域を町の文化財に指定。

●平成 4 年(1992)

教育委員会が沼田町自然史研究室を開設。

米国ロサンゼルス自然史博物館のバーンズ博士と、海牛研究の世界的権威であるハワード大学のドミング博士が来町し、化石産出地点の現地調査を実施。

北海道立社会教育総合センターで沼田町化石展を1ヵ月間にわたり開催。

沼田町の白亜系についての論文、大和治生「北海道沼田地域の上部白亜系」郷土と科学, 105 号, P1~9, が発表される。

沼田の貝化石を研究していた大和治生さんと、中川勝美さんから、沼田町産出のアンモナイトや二枚貝など合計 240 点あまりの化石が寄贈される。

●平成 5 年(1993)

幌新温泉ほたる館で化石特別展『沼田の化石～1 億年刻まれた時間』を開催。

又マタカイギュウなどの化石の年代についての論文、古沢仁・前田寿嗣・山下茂・嵯峨山積「北海道沼田町産海生哺乳類化石群の年代と古環境」地球科学, 47 巻 2 号, P133~145, が発表される。

モササウルスなどについての論文、木村方一・鈴木 茂・山下茂「北海道沼田町の上部白亜系からモササウルス類と長頸竜類化石の発見」穂別町立博物館研究報告, 第 9 号, P29~36, が発表される。

●平成 6 年(1994)

幌新温泉ほたる館で化石特別展『太平洋でつながる進化の道』を開催。同時に、日本地質学会第 101 回記念国際シンポジウム『北太平洋の海生哺乳類化石～海に帰った哺乳類』が開催される。

信州大学の一島啓人氏と北海道教育大学の木村方一教授は、1985 年に発掘されたネズミイルカ化石が、その後の研究により新属・新種であることが判明したと発表。

●平成 7 年(1995)

幌新温泉ほたる館で化石特別展『沼田の化石この 10 年』を開催。同時に、沼田化石研究会創立 10 周年記念式典を実施し、記念誌を発行。

日本古生物学会会長の斎藤常正東北大学教授が沼田町で現地調査を行い、沼田の化石を高く評価。

沼田のセイウチ化石を含む論文、Naoki Kohno・Yukimitsu Tomida・Yoshikazu Hasegawa and Hitoshi Furusawa 「Pliocene Tusked Odobenids (Mammalia:Carnivora) in the Western North Pacific, and Their Paleobiogeography」Bulletin of the National Science Museum, Vol.21, Nos.3,4, が発表される。

●平成 8 年(1996)

1987 年発見の又マタカイギュウについての論文、古沢仁「北海道・沼田町の上部中新統から発見された新たな海牛類化石」化石, 60 号, P1~11, を発表。

●平成 9 年(1997)

幌新温泉ほたる館で化石特別展および第 2 回北海道化石サミットを開催。

●平成 11 年(1999)

雨竜川で山下茂さんが鮮新世の海牛類(左肋骨)を発見。

●平成 12 年(2000)

生涯学習総合センター建設に向けての自然史研究室建物の取り壊しに伴い、新たに沼田町化石館を開設。

11 年前と同地点から松原一雄さん、松原利浩さん親子が鮮新世初期のヒゲクジラ類および歯クジラ類(部位多数)を発見。

ヤマシタ又マタネズミイルカの記載論文、Hiroto Ichishima and Masaichi Kimura 「A New Fossil Porpoise (Cetacea: Delphinoidea: Phocoenidae) From The Early Pliocene Horokaoshirika Formation, Hokkaido, Japan」Journal of Vertebrate Paleontology, 20(3)

:561-576, が発表される。

●平成 13 年(2001)

幌新太刀別川で黒田達也さんが鮮新世のヒゲクジラ類(尾椎)を発見。

●平成 14 年(2002)

雨竜川で山下茂さんが鮮新世のヒゲクジラ類(頭骨など)を発見。

雨竜川で橋場 守さんが鮮新世の海牛類(胸椎)を発見。

●平成 16 年(2004)

篠原暁学芸員が、日本古生物学会において 1989 年と 2000 年に松原さん親子が発見した鯨化石について個人講演。演題「北海道沼田町より産出した鯨類化石について」

■ 活動報告

I 沼田町化石館の概要

1. 沿革

- ・ 1985 年 9 月 沼田歯クジラ会設立。
- ・ 1988 年 5 月 沼田歯クジラ会を沼田化石研究会に改称。
- ・ 1992 年 4 月 沼田町自然史研究室を開設。古沢仁学芸員着任。
- ・ 1998 年 4 月 古沢学芸員が離任し篠原暁学芸員着任。
- ・ 1999 年 12 月 自然史研究室を取り壊しのため閉鎖。沼田町化石館へ移転。
- ・ 2000 年 4 月 沼田町化石館オープン
- ・ 2001 年 4 月 篠原学芸員が離任し山下茂指導員着任。
- ・ 2003 年 8 月 山下指導員病気により死去。年度末まで職員不在となる。
- ・ 2004 年 4 月 篠原学芸員着任。
- ・ 2005 年 4 月 沼田化石研究会が発展的に解散。

2. 設置の目的

沼田町化石館設置の第 1 の目的は、沼田町の財産である化石を、町民にわかりやすく展示・普及することにあります。従って、展示される標本は原則として町内で発見されたものに限り、その目的のために、年数回の特別展と企画展を行っています。

第 2 の目的は、貴重な化石を地元で研究し、その成果を世界に向けて発信することです。そのため、学術的に重要なものについてはレプリカを作成して原標本は厳重に金庫に保管されています。沼田町化石館では、このような化石の発掘からクリーニングを経て、レプリカ作りまでを一貫して行っています。また、インターネットによる情報発信も行っています。

第 3 の目的は、学校や社会での要求が高まりつつある、体験学習の場を提供し、その活動を支援することです。そのために、化石発掘体験学習への講師の派遣や、化石館内での体験教室などを開いています。

第4の目的は、町内外の化石愛好者が交流を行う場を提供するとともに、その活動（友の会）の拠点となることです。また、児童・生徒に対しては、休日の過ごし場を提供するため、化石館教室などを開いています。

このように、町内のみならず、町外に向けても情報発信と自然体験の場を提供することを目的として、今後も活動を続けていきます。

3. 施設内容 開設以来特に大きな変更点はありません。

【名称】沼田町化石館（開設前は住民福祉センター）

【所轄】沼田町教育委員会

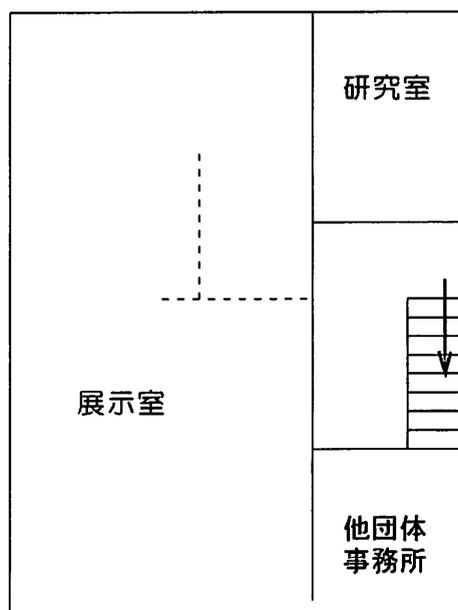
【所在地】北海道雨竜郡沼田町南1条2丁目7番49号

【構造】木造2階建て

【延べ面積】322.29m²

階	室名	面積	機能
1	レプリカ工房	59.49m ²	展示用のレプリカを製作
	クリーニング室	13.22m ²	ダイヤモンドカッターによる岩石切削
	化学作業室	14.87m ²	酸による化学的クリーニングなどを行う
	資料整理室	13.22m ²	レプリカ母型の一時的保管場所
2	収蔵室	24.55m ²	貝や散在の骨化石を収蔵。重要標本は金庫で保管
	展示室	105.76m ²	町内で発掘された化石を中心に展示
階	研究室	19.30m ²	学芸員(古生物学)1名が常駐

【平面図】 《2階》



《1階》



【別館】別棟にレプリカ母型などを収蔵。

Ⅱ 事業

1. 展示

(1) 常設展

夏場に野外で行う化石発掘体験を室内でも手軽に体験してもらうために、『ミニ発掘体験コーナー』を新たに設置しました。内容は、70cm × 50cm のプラスチック製コンテナボックスに砂を入れ、その中に予め採取しておいたタカハシホタテを数枚埋めておき、児童にヘラを使って発掘を疑似体験してもらうものです。

また、平成 17 年度より設置している『さわってさがすコーナー』も今年度引き続き実施し、児童に対して化石に興味をもってもらうことに効果を発揮しました。地元の児童が新たな友だちを誘って繰り返し来館するきっかけともなり、このような体験型の展示を今後も増やしていくことが大切であると考えます。



(2) 特別展

今年度は久しぶりに会場をほたる館に移し、『沼田にクジラがいた頃』と題して特別展を開催しました。中央には 1989 年と 2000 年に発掘されたヒゲクジラをメインとして、数体のクジラを合体させてほぼ 1 頭分の骨格を復元しました。

また、ジュニア化石クラブの活動と連動させ、メンバーが描いたクジラのイラストも同時に展示しました。

【会期】7月23日(土)～8月31日(水)

【会場】幌新温泉ほたる館ロビー



(3) 企画展

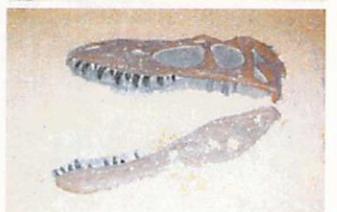
今年度は次の3つの企画展を開催しました。

① 恐竜探検に行こう

恐竜発掘体験コーナーをメインとしたイベントとして開催しました。3m × 2m の発掘サイトに肉食のアルバートサウルス、植物食のエドモントサウルスの2体の恐竜頭骨を設置し表面を砂で覆いました。また、恐竜のペーパークラフトコーナーも好評でした。

【会期】5月3日(火)～5月29日(日)

【会場】沼田町化石館特別展コーナー



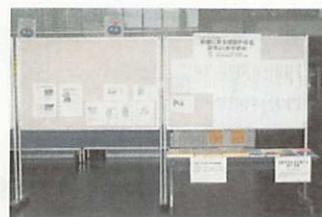
②新聞に見る沼田の化石研究 25 年の歩み

昭和初期の発見を除き、地元で化石が保管されるようになった最初の発見から 25 年目を迎え、過去に見られた数多くの発見をその当時の新聞報道により振り返る展示を実施しました。

また、姉妹都市である富山県小矢部市在住の方から寄贈された富山湾の貝類標本も同時に展示しました。

【会期】10月1日(土)～10月14日(金)

【会場】生涯学習総合センター「ゆめっくる」



③移動展『タカハシホタテと仲間たち』

北海道生涯学習協会の主催による『まなびの広場展』に、移動展として出展しました。沼田町の化石を代表するタカハシホタテを各地から集め、その分布と進化をわかりやすく説明しました。

また、その他のホタテ類化石も全国から多数集め、一堂に展示しました。

【会期】3月1日(水)～3月28日(火)

【会場】道立生涯学習推進センター「まなびの広場」



2. 教育・普及

(1) 化石館事業

今年度も沼田の自然や化石に触れあうことを目的とした行事や、化石館を会場として、休日の児童・生徒の受け皿となるような事業を展開しました。

①沼田ときどき探検隊《継続事業》

沼田の自然や化石と触れあうことを目的とした事業で、恒例の化石採取をメインとして、4回実施しました。

【第1回】春の山野草観察会

5月29日(日)、18名の参加者で実施しました。

カタクリ、エゾエンゴサクなどの春の花を観察し、山菜を天ぷらにして試食しました。

【第2回】幌新太刀別川化石採取会

7月30日(土)、参加者29名

【第3回】幌新太刀別川化石採取会

8月7日(日)、参加者68名

2回目は川の水量が多かったもののなんとか実施することができました。親子連れや年配者の参加が目立ちました。



【第4回】町外施設見学会「旭川市科学館」見学

9月3日(土), 参加者8名

オープンしたばかりの旭川市科学館を見学しました。北方圏の生活と科学について学習し、最新鋭のプラネタリウムを楽しみました。



②星空教室《継続事業》

化石館所有の天体望遠鏡の有効活用と天文ブームに応えるため実施しました。

【第1回】月と木星の観察 6月16日(木), 参加者5名

月と木星が接近しているようすを天体望遠鏡で観察しました。また、春の星座についての解説を行いました。

【第2回】部分月食と火星の観察 10月17日(月)予定 都合により中止

③プラネタリウムコンサート《新規事業》

町民会館に設置されているプラネタリウムの有効活用を図り、町民に気軽に星座に親しんでもらうという趣旨で企画しました。

【第1回】夏の夜空と七夕の名曲 7月16日(土) 参加者12名

【第2回】秋の夜空と月の音楽 10月15日(土) 参加者31名

④ジュニア化石クラブ《名称変更継続事業》

学校が休みとなる土曜日を、児童・生徒に有意義に過ごしてもらうことを目的とし、今年度のテーマは金属や石にちなんだ実験などを行いました。また、今年から事前に会員登録をし、クラブという形式で実施しました。

【第1回】光るどろだんごづくり 5月14日(土) 参加者21名

毎年人気のプログラムです。屋外で実施しましたが、風が強くて砂が飛んでしまい、大変でした。

【第2回】金属のふたで鏡を作ろう

6月11日(土) 参加者12名

ジャムなどのびんのふたを紙ヤスリで削り、最後は磨き粉をつけながら根気強く磨いて鏡を作りました。



【第3回】動物の骨を調べよう

7月9日(土) 参加者8名

トドとホッキョクグマの骨格レプリカを使い、陸上の動物と海で生活する動物の骨の違いを観察しました。



【第4回】光る石でブローチづくり

8月20日(土) 参加者13名

鳴き砂とよばれる海の砂から石英という宝石と同じ種類の鉱物を、ルーペや顕微鏡を使いながら拾い上げ、好きな形の台紙に貼ってブローチにしました。



【第5回】砂鉄から鉄を作ろう

9月10日(土) 参加者5名

砂鉄の多い海岸の砂から、磁石で砂鉄を集めアルミニウムの粉と混ぜて点火する「テルミット法」による鉄づくりを実験しました。



【第6回】オリジナルマグネットづくり

10月8日(土) 参加者9名

自分の好きなフィギュアを粘土で型取りし、プラスチックを流しこんで固めたあと磁石をつければ、オリジナルなマグネットの完成です。



⑤レプリカ製作体験講座《新規事業》

沼田町化石館が誇るレプリカ製作技術を、町民にも学んでもらうために体験講座を実施しました。

【第1回】シリコンによる型取り

11月26日(土) 参加者5名

【第2回】樹脂による成形

12月4日(日) 参加者5名



(2) 体験学習受け入れ

学校関係では、見学旅行や理科・総合学習などの授業の一環として、また、社会教育関係団体も、教育委員会主催のものだけでなく、民間団体やPTAなど多彩な団体が、体験学習に訪れました。内容としては、野外での化石発掘と、化石館体験工房でのレプリカづくりなどを行いました。

【化石発掘体験学習実施団体一覧】

①化石発掘体験学習

市街地から車で10分ほどの幌新太刀別川河床に露出する、500万年前のタカハシホタテ化石を採取します。今年度は川の水量が比較的少なく、天候にも恵まれて良い状態で実施できました。

実施期日	団体名	人数
6月1日	浦臼中学校	13人
6月8日	小樽市北手宮小学校	16人
6月14日	小樽市桂岡小学校	40人
6月16日	小樽市花園小学校	35人
6月18日	札幌開成高校	19人
6月23日	小樽市望洋台小学校	80人
6月25日	雨竜町教育委員会	4人
6月29日	札幌市屯田北小学校	87人
7月3日	旭川市博物館	32人
7月5日	札幌市三角山小学校	47人
7月6日	沼田高校	18人
7月10日	旭川ボーイスカウト12団	17人
7月13日	増毛第2中学校	10人
7月14日	深川市納内小学校	20人
7月17日	北大化石愛好会	6人
7月23日	深川小学校PTA	43人
7月24日	秩父別町教育委員会	32人
7月26日	道立理科センター親子化石教室	31人
7月28日	空知教育局初任者研修	11人
7月29日	旭川インターナショナルチャータースクール	19人
7月30日	化石館化石採取会1	29人
8月4日	理科センター教員特別研修	21人
8月6日	札幌あいの里西小おやじの会	47人
8月7日	化石館化石採取会2	68人
	合計	745人



②レプリカ製作体験および化石クリーニング体験

従来は野外の状況により化石発掘ができない場合、代替プログラムとしてレプリカ製作体験を行う場合がありますが、今年度は1泊の宿泊研修で1日目に化石発掘を行い、2日目にレプリカ作りを体験する事例がありました。また、化石発掘ができない時期に、館で用意した化石をクリーニングして持ち帰る「化石クリーニング体験」も実施しました。



【実施団体一覧】

団体名称	実施日	内容	人数
浦臼中学校	6月2日	レプリカ	13人
北竜町立真竜小学校	11月16日	クリーニング	18人

(3) 講演・講師活動

今年度は学芸員が出向いての出張授業や、講師活動ではなく、化石館の展示を利用した理科の授業を実施しました。



【実施団体一覧】

団体名称	実施日	内容	人数
北竜町立真竜小学校	11月16日	理科(地層と化石)学習	18人

(4) 広報活動・出版物

化石館の活動紹介や行事の周知のため、広報誌や企画展のリーフレットを発行しました。

①広報誌

『沼田町化石館だより』を5月から11月までの7回発行しました。体裁はA4版両面モノクロ印刷で、毎回1600部印刷し、町内の全世帯に配布の他、交流のある博物館・研究機関などにも配布しました。また、カラー版をホームページ上で閲覧できるようにしました。

【主な内容】

- ・5月号 今年度の事業紹介、山野草観察会の案内。
- ・6月号 企画展の内容紹介、化石採集のお誘い。
- ・7月号 体験学習の紹介、プラネタリウムコンサートのご案内。

- ・ 8月号 特別展の内容紹介, 新入手標本紹介,
- ・ 9月号 体験学習終了, 化石採取会の報告
- ・ 10月号 今年度入館者の動向, 企画展のお知らせ
- ・ 11月号 企画展の内容紹介, 新入手標本紹介

②企画展リーフレット

3月の企画展「タカハシホタテと仲間たち」は、実施に向けて独自に標本収集を進めたほか、協力機関からも多数の標本を借りることができ、大変充実した内容となったので、その記録を残すためリーフレットを制作しました。体裁はA3版フルカラー両面印刷2枚折りで、レーザープリンタにより300枚印刷しました。配布先は、企画展会場での観覧者の持ち帰りの他、関係機関にも参考資料として配付しました。

3. 調査・研究

(1) 学術講演

沼田町化石館が行っている研究の成果を発表する場として、次の学術講演を行いました。

①日本古生物学会 2005 年年会

【期 日】 2004 年 7 月 2 日～ 4 日

【会 場】 東京大学

【講演者】 学芸員 篠原 暁

【演 題】 北海道沼田町より発見されたクジラ化石の産状と年代について

【内 容】 沼田町幌新の前期鮮新世初期の、幌加尾白利加層最下部より発見されたクジラ化石は、ノジュール状の産状を示しており、骨の関節状態からあまり移動はしていないと考えられるが、その後の物理的作用により破壊を受けている。



(2) 野外調査

企画展に向けての標本収集、また、新たな発見を期待して次の野外調査および発掘を行いました。

①昭和地区の白木沢における白亜紀アンモナイト調査

【期 日】 6 月 9 日 (木), 9 月 27 日 (火)

【場 所】 沼田町旧昭和地区, 白木の沢

【参加者】 篠原学芸員, 橋場守講師

【成 果】 今回調査を行った白木の沢は、今まで調査されたことのない空白地帯でした。当日は 6 月とはいえまだ残雪が見られる中、旧昭和地区の炭坑住宅跡から徒歩で 1 時間ほど沢を登り調査した結果、直径 40cm 大のアンモナイトを発見しましたが、そのときは搬出が困難だったので、後日回収しました。



②千葉県木更津市の更新世化石調査

【期 日】 8月30日(火)

【場 所】 千葉県木更津市 (更新統の下総層群)

【参加者】 篠原学芸員, 中島礼研究員(産総研)

【成 果】 トウキョウホタテをはじめとして, イタヤガイ, ヒヨクガイ, など多くの標本を採集することができました。



③群馬県安中市の中新世化石調査

【期 日】 8月31日(水)

【場 所】 群馬県安中市 (中新統の富岡層群)

【参加者】 篠原学芸員

【成 果】 数点の貝化石を発見しましたが, 採集可能なものはありませんでした。



④幌新太刀別川の鮮新世化石調査

【期 日】 9月27日(火)

【場 所】 沼田町, 幌新太刀別川 JR 鉄橋下流域

【参加者】 篠原学芸員

【成 果】 過去にアシカ科動物化石が発見された周辺を調査しましたが, 期待した動物化石など特筆すべき発見はありませんでした。

⑤遠別町の更新世化石調査

【期 日】 10月13日(木)

【場 所】 遠別町, 遠別川下流域 (上部鮮新統から下部更新統の勇知層)

【参加者】 篠原学芸員

【成 果】 もっとも新しい時代のタカハシホタテの発見には至りませんでした。

⑥長野県長野市戸隠の鮮新世化石調査

【期 日】 10月16日(土)

【場 所】 長野市戸隠, 裾花川流域 (鮮新統の柵層)

【参加者】 篠原学芸員, 田辺学芸員(戸隠地質化石館)

【成 果】 地元の学芸員の方に案内していただき, シナノホタテなどこの周辺にしか見られないホタテ類化石を含むブロックを数点採集しました。



⑦新十津川町の鮮新世化石調査

【期 日】 10月27日(木)

【場 所】 新十津川町, 徳富川流域

【参加者】 篠原学芸員

【成 果】 新十津川町の徳富川では, 沼田町と同じ鮮新統の幌加尾白利加層下部を観察できますが, 最近の報告ではこちらの方がやや時代が



古いようです。今回は約 700 万年前のもっとも古いタカハシホタテを採集することができました。

⑧黒松内町の更新世化石調査

【期 日】 10月29日(土)

【場 所】 黒松内町，添別川流域

【参加者】 篠原学芸員



ホタテガイ

ダイシャカニシキ

【成 果】 黒松内町では第四紀更新世の瀬棚層からたくさんの貝化石が産出します。特に添別川流域では、化石が密集しているようすが観察されます。今回の調査では非常に保存状態のよいホタテガイを始め、アズマニシキガイ、ダイシャカニシキなど多数の資料を採集することができました。

⑨初山別村の更新世化石調査

【期 日】 11月5日(土)

【場 所】 初山別村，歌越海岸周辺

【参加者】 篠原学芸員

【成 果】 遠別町の勇知層と同時代、およそ 200 万年前の茂築別層から保存状態のよいタカハシホタテを数点採集することができました。この標本がこれまでの中でもっとも新しい時代のタカハシホタテとなりました。



⑩雨竜川においてタカハシホタテの採集

【期 日】 11月7日(月)，8日(火)

【場 所】 沼田町高穂第2，雨竜川流域

【参加者】 篠原学芸員

【成 果】 化石クリーニング体験学習用にタカハシホタテを大量に採集し、併せて、周辺の探索も行いましたが、大型動物化石は発見できませんでした。

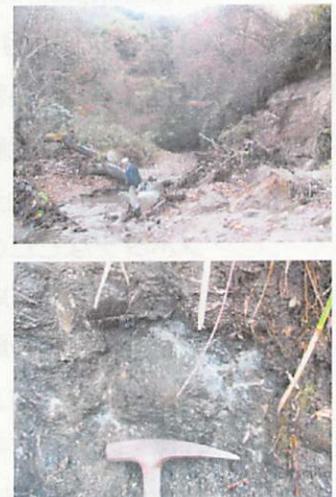
⑪宮城県仙台市周辺の鮮新世化石調査

【期 日】 12月7日(水)

【場 所】 仙台市周辺

【参加者】 篠原学芸員，増田孝一郎宮城教育大名誉教授

【成 果】 沼田町の幌加尾白利加層と同じ鮮新統の竜の口層からカネハラヒオウギ、タカハシホタテなど数点を採集できました。また、増田名誉教授から竜の口周辺の地層について説明を受けました。



この他、恵比島第4の幌新太刀別川においては日常的に調査を継続しましたが、今年度は大型動物化石の発見には至りませんでした。

4. 資料収集

(1) 現在までの登録資料数

分類			標本数	分類			標本数
脊椎動物化石	哺乳類	鯨類	20	無脊椎動物・その他	斧足類	732	
		鬚鯨	12		腹足類	68	
		その他鯨	38		頭足類	192	
		海牛類	5		甲殻類	11	
	束柱類	2	棘皮動物		20		
	鰐脚類	14	植物		85		
	奇蹄類	1	現生標本		256		
	その他哺乳類	14	岩石・鉱物・その他		115		
	鳥類	4	無脊椎動物・その他計		1479		
	は虫類	3					
	魚類	19					
脊椎動物計			132	総計	1611		

(2) 今年度収集資料

企画展に関連し、ホタテ類化石を中心に道内各地や本州方面での収集活動を行いました。

標本名	採集者	産出地
・アンモナイト	橋場守	沼田町昭和 白木の沢
・タカハシホタテ	篠原暁	新十津川町 徳富川
・タカハシホタテ	〃	初山別村 歌越海岸
・トウキョウホタテ	〃	千葉県木更津市
・イタヤガイ	〃	〃
・ヒヨクガイ	〃	〃
・ホタテガイ	〃	黒松内町 添別川
・アズマニシキガイ	〃	〃
・ダイシャカニシキ	〃	黒松内町 歌才
・シナノホタテ	〃	長野県長野市戸隠 裾花川
・カネハラヒオウギ	〃	宮城県仙台市 堂所

(3) 寄贈された標本

標本名	個数	寄贈者(敬称略)	産出地
・アンモナイト	1個	林純二(上砂川町)	沼田町白木の沢
・現生貝類標本	3箱	北浦清(富山県小矢部市)	富山県内の海岸
・ホタテ類化石	5個	〃	〃 高岡市
・タカハシホタテ	1個	中島礼(産総研)	サハリン
・タカハシホタテ	1個	仙台市科学館	宮城県仙台市広瀬川
・ホクリクホタテ	1個	杉本郁夫(愛知県豊田市)	石川県金沢市
・ホタテ類化石	3個	戸隠地質化石館	長野県長野市戸隠他
・現生ツキヒガイ	1個	〃	不明

5. レプリカ製作

当館の収蔵資料と、館外から委託されて製作したレプリカは次のようになります。

(1) 当館収蔵資料

① ヒゲクジラ実物大生体復元模型

ナガスクジラをイメージし、沼田から発見されたクジラ化石の実物大生体復元を行いました。体長約10mで全体を20個のブロックに分割しています。ウレタンフォームの建材で枠をつくり、その間を発泡ウレタンでうめる方法を採用しました。こうすることで、巨大な模型でも比較的軽量に作ることができます。年度途中で別な作業にかかったため、製作は現在中断しています。



(2) 外部からの委託製作

① リクガメ化石レプリカ

穂別町立博物館(現むかわ町立穂別博物館)より依頼を受けました。

② 札幌海牛復元骨格

札幌市博物館活動センターよりの依頼で、全長7mおよそ820万年前のヒドロダマリス科ダイカイギュウの骨格復元を行いました。産出部位はポリエステル樹脂製その他復元部位は硬質ウレタンを採用したため、軽量で移動先での展示も容易です。頭部、前半身、後半身の3分割にし、骨のパーツは接合せずにすべて独立させているので、分解して収納することが可能です。そのため、今回は鉄骨フレームの形状も従来方式ではなく新たに設計し直しました。



Ⅲ 管理・運営

1. 利用状況

(1)入館者数

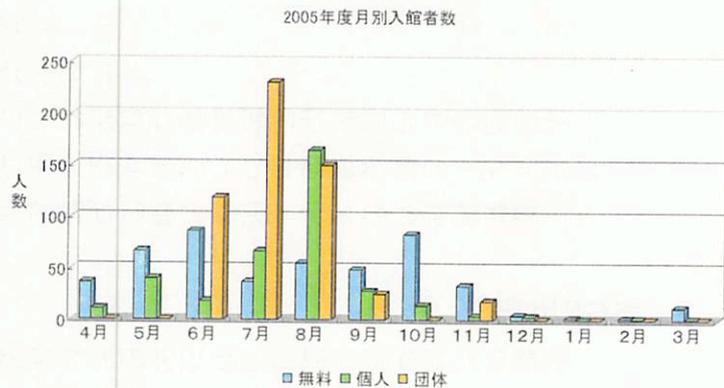
入館者数は観覧料別に集計しています。ただし、町内来館者の中には無料の招待者も含まれています。観覧料は以下のようになっています。

- ・沼田町民 無料
- ・個人入館者 一般 300円 / 高校生以下 200円 / 幼児 無料
- ・団体入館者 一般 200円 / 高校生以下 100円 / 幼児 無料

月	無料入館者						個人入館者						団体入館者						合計
	幼児	小学	中学	高校	一般	小計	幼児	小学	中学	高校	一般	小計	幼児	小学	中学	高校	一般	小計	
4	2	26	0	0	8	36	0	1	0	0	10	11	0	0	0	0	0	0	47
5	6	35	0	1	25	67	2	8	0	0	30	40	0	0	0	0	0	0	107
6	0	27	13	0	46	86	0	5	0	0	13	18	0	87	13	19	0	119	223
7	3	15	3	0	16	37	3	15	3	4	42	67	2	108	13	0	107	230	334
8	3	23	15	0	14	55	19	39	4	0	103	165	3	71	0	1	75	150	370
9	1	8	0	0	40	49	0	3	0	0	25	28	0	0	0	0	25	25	102
10	2	20	0	0	61	83	2	3	0	0	9	14	0	0	0	0	0	0	97
11	0	4	0	0	29	33	0	0	0	0	4	4	0	18	0	0	0	18	55
12	0	2	0	0	3	5	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	8
1	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
2	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3
3	0	9	0	0	3	12	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	13
年間	17	169	31	1	249	467	26	74	7	4	241	352	5	284	26	20	207	542	1361

(2)入館者の状況

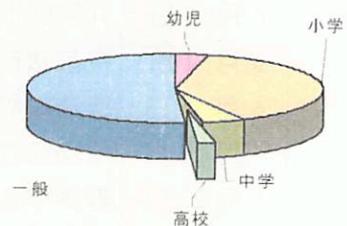
①月別の利用状況グラフ



②来館者の年齢構成グラフ

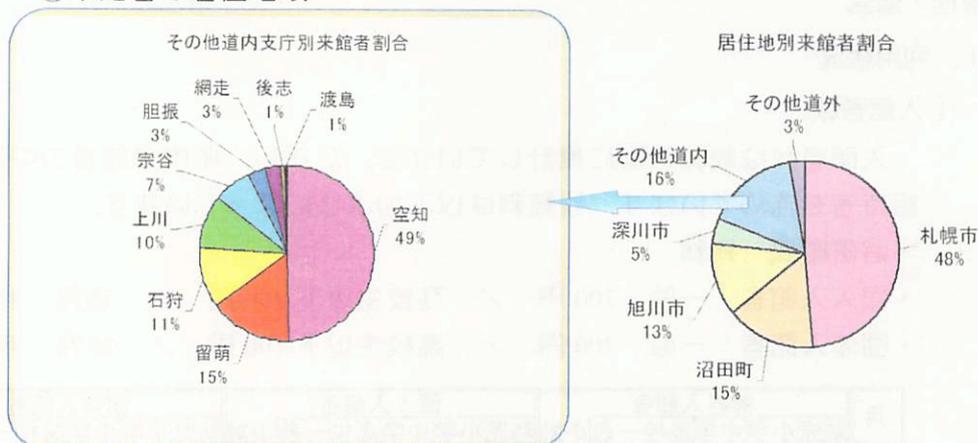
	幼児	小学	中学	高校	一般	合計
人数	48	527	64	25	697	1361
割合	3.5	38.7	4.7	1.8	51.2	100.0

2005年度年齢階層別入館者割合



今年度も、小学生の団体と親子連れというのが最も一般的な利用スタイルでした。

③来館者の居住地域

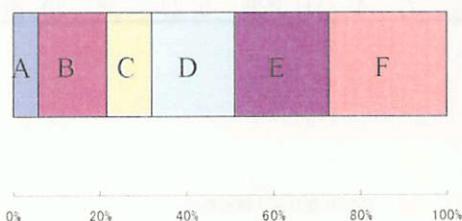


入館者の約半数が札幌市からの来館者です。大都市では一番近い旭川市がそれに次いでいます。町内からは小学生のリピーターが多く見られました。その他の道内からの来館者では、やはり近隣の空知支庁管内からの来館が多く特に隣町の秩父別町と北竜町が増加しています。

④来館の動機

来館者に次の中から選んでもらいました。

(回答総数 88 名)



- A：たまたま通りがかった 5
- B：ひとから聞いた 14
- C：チラシ、ポスターを見た 9
- D：インターネットで見た 17
- E：本や地図で見た 19
- F：その他 24

その他の中には旅行情報雑誌が含まれているようです。各地の博物館などにポスターの掲示依頼もしていますが効果は今ひとつのようで、インターネットや雑誌などのメディアでの宣伝が有効なようです。

2. おもな出来事

事業などですでに掲載した以外のおもな出来事をあげます。

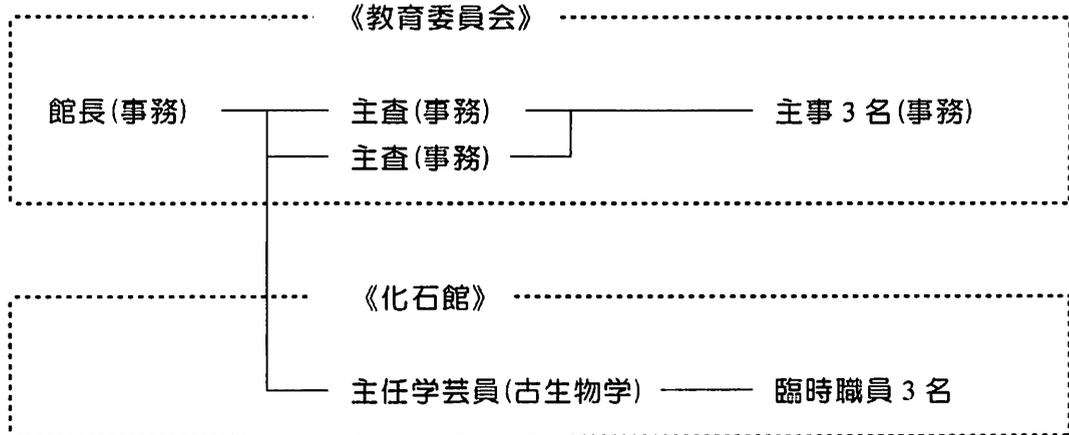
月 日	行 事 等 の 内 容
4 月 1 日	化石館インターネット「フレッツADSL」回線運用開始。
5 月 12 日	浦臼中学校室松教諭他 2 名と野外学習実施について打ち合わせ。
6 月 3 日	札幌開成高校梅原教諭と野外学習実施について打ち合わせ。
6 月 4 日	京都教育大学で開催された化石研究会学術大会を見学。(篠原)
6 月 15 日	総務省の研修視察で 3 名来館。
6 月 22 日	穂別町立博物館櫻井学芸員が来館。長頸竜標本貸出。
6 月 23 日	野外学習時の事故への対応についての学習講座に参加。「保険について知る講座」於：札幌市「NPO サポートセンター」(篠原)

6月29日	今年度沼田町へ転入した教職員の研修視察で12名来館。
6月30日	電気設備定期調査。
7月2日	浅井学園一行が見学のため来館(35名)。
7月2日	国立科学博物館で開催中の「恐竜博2005」を見学。(篠原)
7月18日	中川町校長会が見学のため来館(9名)。
7月20日	旅行雑誌「北海道じゃらん」に紹介記事を掲載。
8月1日	札幌市で開催された国際哺乳類学会を見学。(篠原)
8月3日	国際哺乳類学会参加で来道中の香川大学中谷英夫教授が来館。
8月5日	博物館実習生受け入れ。(埼玉県草加市國澤正和さん、12日まで)
8月10日	福岡県地学部が見学のため来館(14名)。
8月30日	千葉県立中央博物館を見学。(篠原)
8月31日	群馬県立自然史博物館で開催中の企画展「パレオが見ていた大海原」を見学。(篠原)
9月7日	教育委員会事業「合宿通学」(第1次)指導担当の浅井学園学生が、化石クリーニングとレプリカ作りを研修(4名)。
9月7日	北空知管内高校校長会が見学のため来館(25名)。
9月29日	合宿通学(第2次)指導担当の浅井学園学生が、化石クリーニングとレプリカ作りを研修(7名)。
9月30日	旭川市永山老人クラブが見学のため来館(28名)。
10月9日	札幌市のミニFM局「ラジオカロス」が、化石館から中継。
10月13日	中川町自然誌博物館で開催中の「道北の化石」展を見学。(篠原)
10月15日	教育大学岩見沢校理科教育研究室が幌新太刀別川で野外調査。
10月16日	長野市立博物館分館戸隠地質化石館を見学。(篠原)
10月16日	長野県信州新町化石博物館で開催中の「ホタテガイの世界」展を見学。(篠原)
10月17日	福井県立恐竜博物館で開催中の「大空に羽ばたいた恐竜たち」展を見学。(篠原)
10月18日	札幌沼田会が見学のため来館(35名)。
10月25日	美瑛小学校が幌新太刀別川で現地学習(51名)。
10月28日	北空知助役会が見学のため来館(20名)。
10月31日	NHK テレビ「列島縦断鉄道乗り継ぎの旅」で、旅人の関口知宏氏が沼田町を訪れ、幌新太刀別川で化石採集を体験。
11月17日	道議会一行が見学のため来館(18名)。
11月18日	読売新聞夕刊にコラム執筆中の地域メディア研究所主宰佐々木典寛氏が、取材のため来館。
11月25日	沼田町教育振興会地域教育部会の先生方が化石のレプリカ作りについて研修(6名)。
12月7日	仙台市科学館を見学。収蔵標本を調査。(篠原)
3月4日	札幌市 WEST19 での札幌海牛総合調査報告会に札幌海牛復元骨格を展示。

3. 組織・職員

組織は次のようになります。館長および事務局は教育委員会と兼務です。化石館には学芸員と臨時職員が常駐しています。臨時職員は化石の剖出作業やレプリカ製作など、専門的な業務を行っています。

【平成 17 年度組織図】



【平成 17 年度職員名簿】

館長(教委次長兼務)	金平	嘉則
主査(教委主査兼務)	赤井	圭二
主査(教委主査兼務)	高橋	征一
主任学芸員(専任)	篠原	暁
主事(教委主事兼務)	岩井	俊直
主事(教委主事兼務)	大原	利啓
主事(教委主事兼務)	土田	奈々
臨時職員(専任)	辻	優子
臨時職員(専任)	小坂	恵子
臨時職員(専任)	谷口	真弓

沼田町化石館年報
第5号

平成 17 (2005) 年度

発行日 2006年3月31日
発行者 沼田町化石館
執筆・編集 篠原 暁

〒 078 - 2202

北海道雨竜郡沼田町南 1 条 2 丁目 7 番 49 号

電話・FAX 0164-35-1034

E-mail kaseki@guitar.ocn.ne.jp

URL <http://www3.ocn.ne.jp/~kaseki/>

